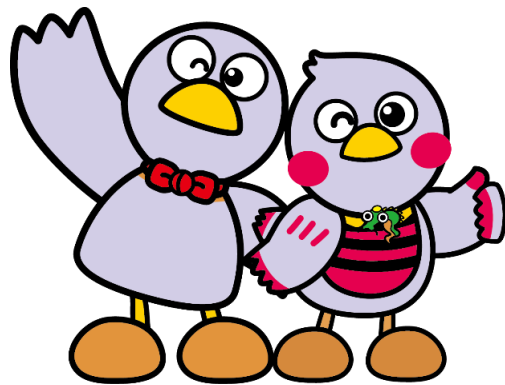


令和7年度 東部地区学力向上推進協議会

未来を創る、こどもたち。
未来を育てる、わたしたち。
～未来への責任～

「児童生徒一人一人の 確かな学力の育成について」



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

令和8年1月23日（金）
県教育局市町村支援部義務教育指導課
学力向上推進・学力調査担当

本日のアウトライン

情報提供

- 1 埼玉県学力・学習状況調査の結果
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善



情報提供

1

令和7年度

埼玉県学力・学習状況調査の結果

ア 教科に関する調査結果

○全ての学年・教科で、学年が上がるごとに、学力が着実に伸びている。

国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	17	18	21	22	22	24
現中2	18	18	20	21	22	
現中1	16	19	19	22		
現小6	16	17	19			
現小5	14	17				
現小4	14					

横に見ることで、
同一の集団の学力
の推移が分かる

算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	14	17	18	19	21	23
現中2	15	16	17	17	21	
現中1	14	16	17	18		
現小6	13	14	16			
現小5	12	14				
現小4	12					

英語

学年	中2	中3
現中3	25	28
現中2	25	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

⇒ 今年度の数値

※小4～中3で「学力のレベル」は、36段階で設定している。
※表の数字は各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

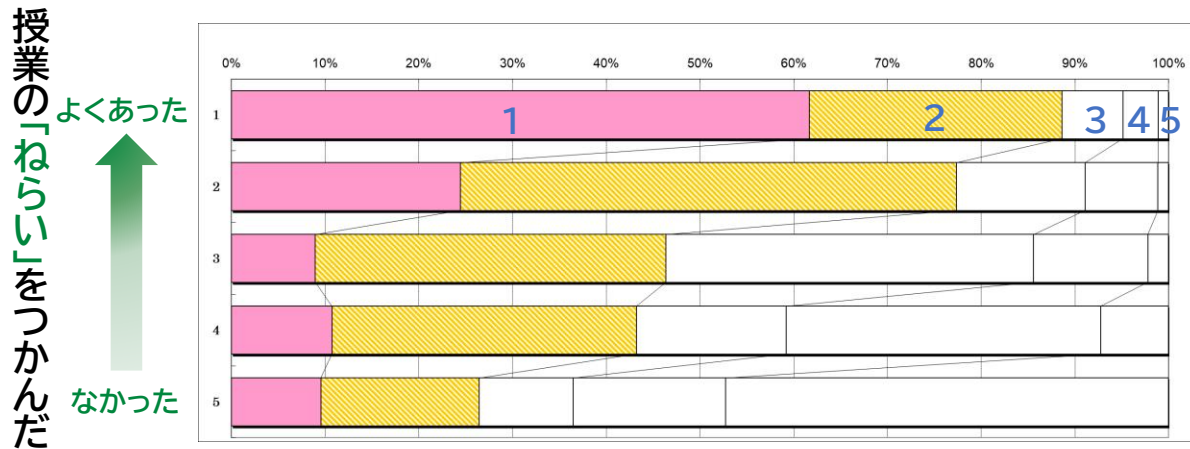
イ 分析結果① 児童生徒質問調査からの分析

「主体的な学び」についてわかったこと

授業のはじめに、「その授業でどんな学習をするか」(ねらい)をつかんだ児童生徒ほど、授業の終わりに学んだことを振り返り、「自分がわかったこと・わからなかったこと」を理解する傾向がある。

中3

「自分がわかったこと・わからなかったこと」の理解



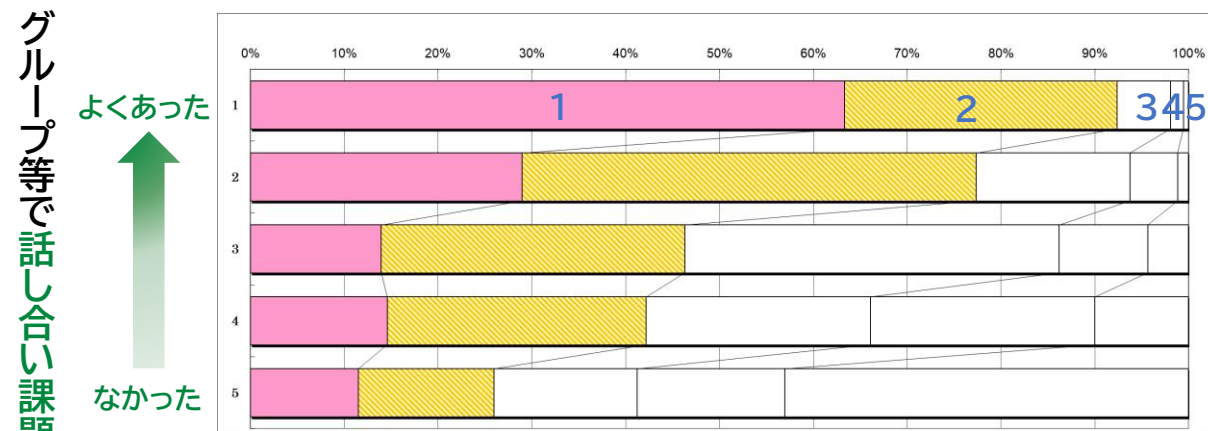
1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

「対話的な学び」についてわかったこと

グループ等で話し合い課題解決した経験のある児童生徒ほど、話し合いの結果、「自分の考え方が変わったり、深まったりした」と回答した割合が高い傾向がある。

小4

「自分の考え方が変わったり、深まったりした」



1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

イ 分析結果② CBT化による解答ログを用いた分析

児童生徒の「見直し時間」の状況と教科に関する調査項目について分析した結果

I **見直しを行う児童生徒は、正答率が高い。**



さらに児童生徒質問調査との関係について分析した結果



II ○**作業方略の数値**が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。
○**自己効力感の数値**が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。

【作業方略】

学習方略の一つ。ノートに書く、声を出すといった、作業を中心に学習を進める活動

【自己効力感】

非認知能力の一つ。自分はそれが実行できるという期待や自信

見直しを習慣化させるために、作業方略や自己効力感を高める取組が重要



令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔令和7年4、5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～



埼玉県マスコット「コバトン」

令和7年12月
埼玉県教育委員会

【令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書】

- 第1章 調査の概要
- 第2章 調査結果の概要
- 第3章 調査結果の活用
- 第4章 特徴的な取組の紹介
- 第5章 その他

令和7年度版が公開されました

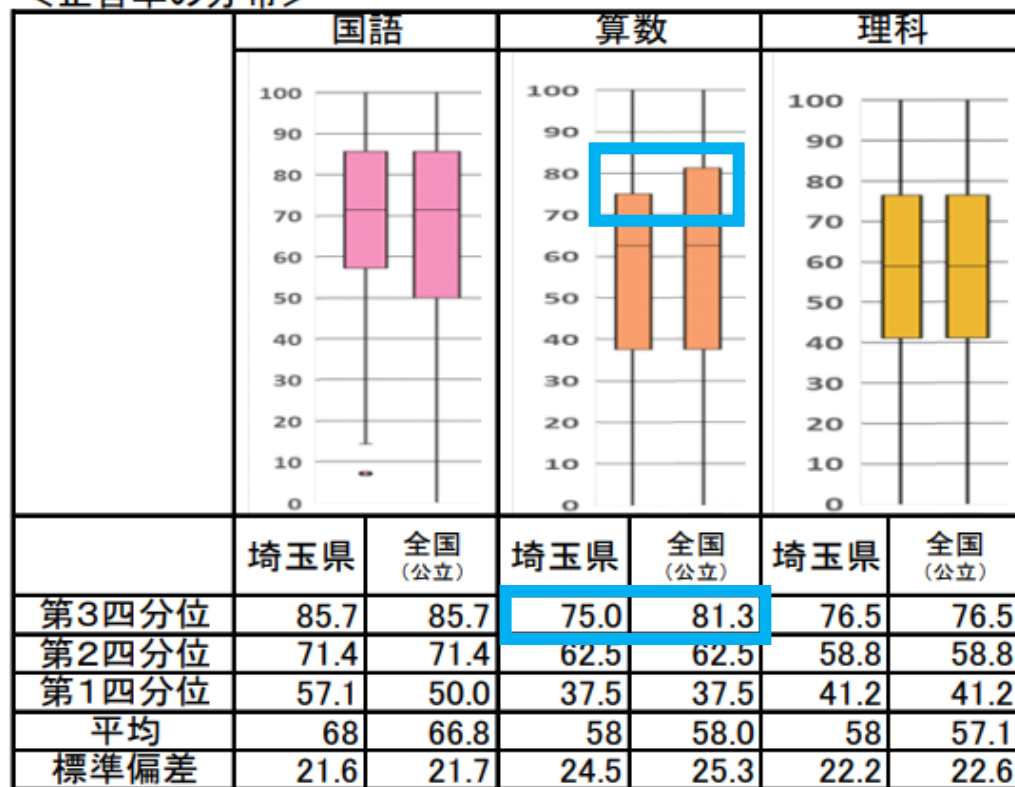
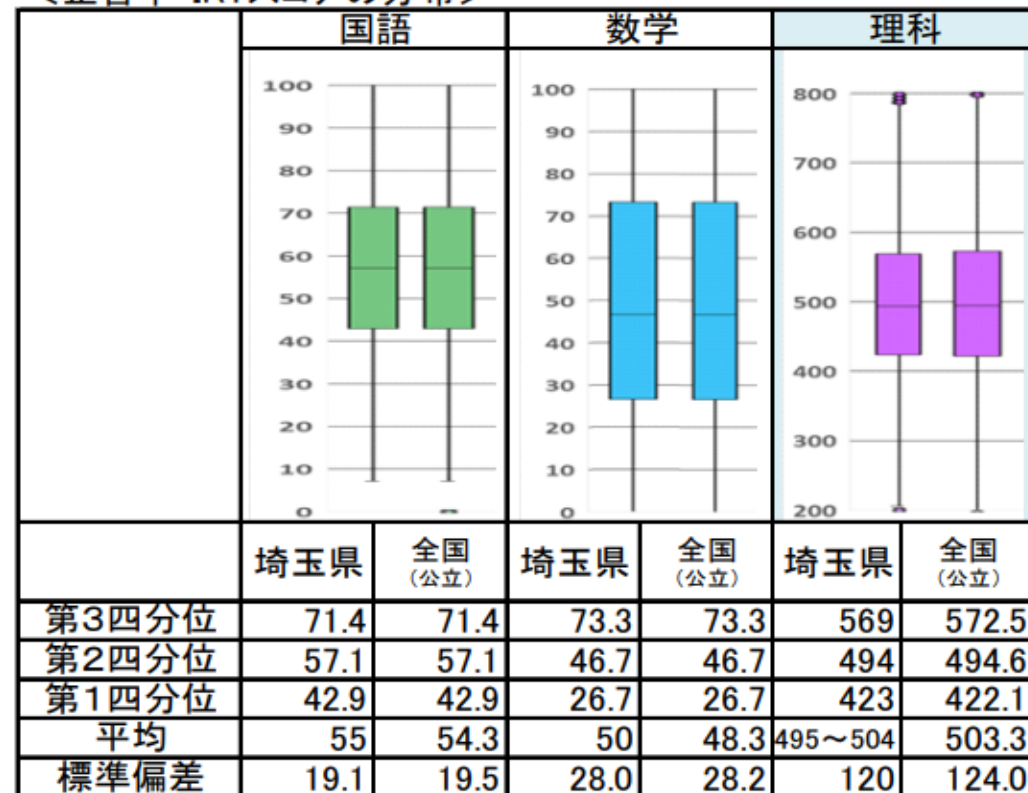
2

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善

令和7年度全国学力・学習状況調査 都道府県・指定都市別ノート

11. 埼玉県 (指定都市を含む)

【1】教科調査・質問調査の結果

① 小学校
＜正答率の分布＞② 中学校
＜正答率・IRTスコアの分布＞

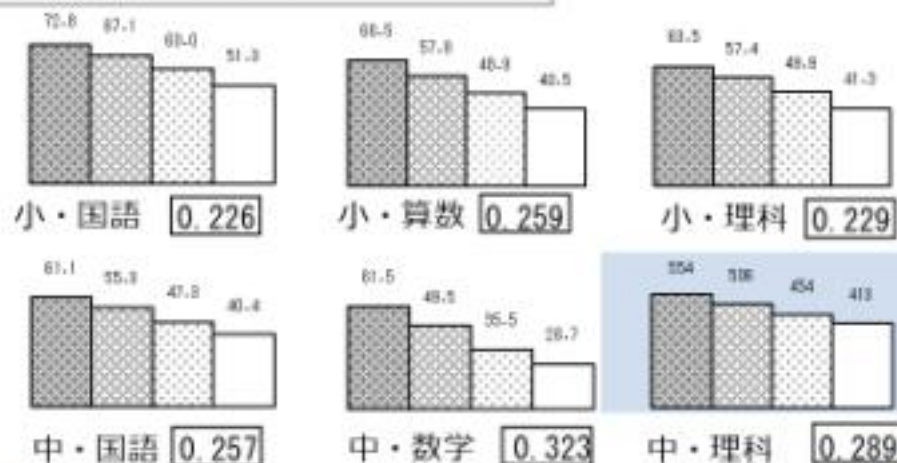
- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる
 ▩ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率・スコア



※ 「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

- 単元ごとに育成したい資質・能力を明確にした上で、学習課題を工夫し、全ての児童生徒が学習課題の解決に挑戦できる授業の構築

<学習課題設定の工夫例>

「 $13 - 9$ の答えを求めましょう。」と単に引き算の答えを求めるのではなく、「 $13 - 9$ のような計算は、どのように考えたら答えが出るか考えよう。」と投げかけ、**答えに至るまでの多種多様な考え方を学ぶ**ことで、桁が大きな引き算や一問一答ではない、文章問題でも答えを求めることができるような考える力を育成する。



<授業形態の工夫例>

県学調の結果を分析し、児童生徒個々の学力・学習方略・非認知能力を把握した上で教員が意図的にグループやペアを設定する。

様々な学力層の児童生徒のグループを設定した場合、**中・上位層の児童生徒は下位層の児童生徒に説明をすることで学習内容を再確認したり、下位層の児童生徒は解決方法を模倣したり**することで、学習課題の解決につながる。



<振り返りの工夫例>

<小学校書写における授業(例)>

試書と比べて良くなった点から、学習で身に付いたことや今後に生かすことなどについて考えられるようにする。



<児童の振り返り(例)>

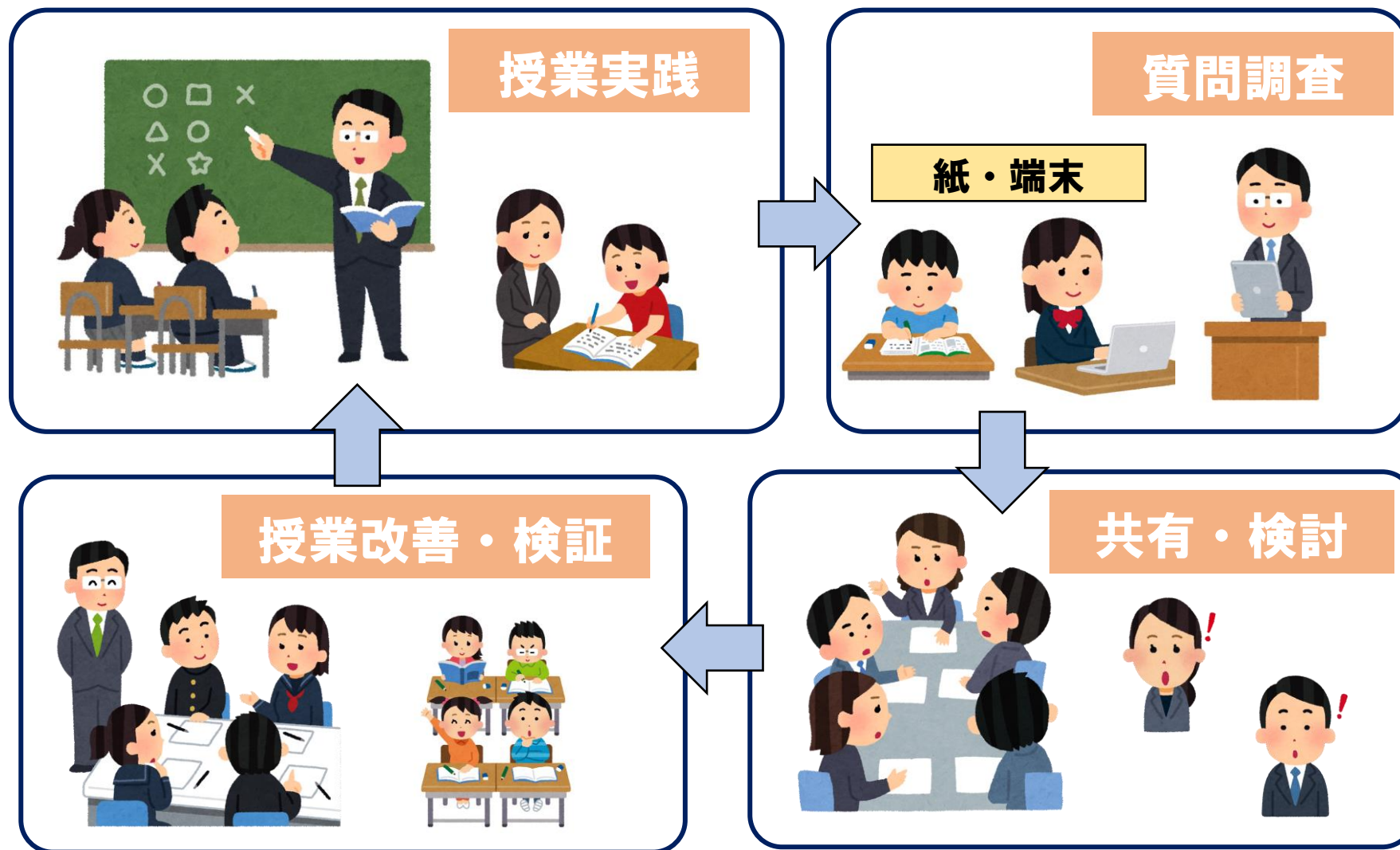
「はじめて書いた字と今日書いた字をくらべました。『おれ』や『はね』の方向に気をつけて書くとよく書けるとわかりました。ノートや手紙を書く時にも、『おれ』や『はね』に気をつけて書いていきたいです。」



「自分が学んで身に付いたこと」「自身の変容」について児童生徒
が自分の言葉で振り返るようにする。

学習したことの目的や意味を自分事として捉え、次の学習へつなげたり、日常生活に生かしたりすることができるようにする。

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

項目 番号	調査実施学年・組等		小学校●年●組				調査実施学年・組等	
	教科		6月		12月		教科	
	実施年月		児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	実施年月	
	児童生徒 調査項目	児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	教員 調査項目		
1	授業の始めに、今日はどうな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	4.00	2	4.72	5	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと		
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	4.28	2	4.72	5	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと		
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	4.52	2	4.68	4	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと		
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	4.68	4	4.68	5	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。		
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	4.48	4	4.76	5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと		
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	4.68	4	4.68	5	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと		
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	4.28	4	4.28	4	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと		
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	4.48	4	4.72	5	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと		
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	4.40	2	4.76	4	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと		
10			2		5	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

項目 番号	調査実施学年・組等		中学校●年●組				調査実施学年・組等	
	教科		6月		12月		教科	
	実施年月		児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	実施年月	
	児童生徒 調査項目	児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	教員 調査項目		
1	授業の始めに、今日はどうな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	3.03	5	3.94	5	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと		
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	3.94	4	4.53	5	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと		
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	4.09	4	4.17	4	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと		
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	4.46	5	4.61	5	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。		
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	4.06	4	4.31	4	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと		
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	3.77	5	4.31	5	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと		
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	3.17	4	3.94	5	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと		
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	4.14	4	4.42	5	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと		
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	3.34	5	3.97	5	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと		
10			4		4	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査を活用した取組〉

各質問項目について（学力向上プロジェクト教員協議会にて）

○質問項目 2「授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと」

- ・振り返りの視点の設定をすること。（ただの感想にならないために。）
- ・先生にとっても子供にとっても何を書くかを明確にすることが大切。
- ・振り返ってもらいたいことが、黒板に残っているのかどうか。

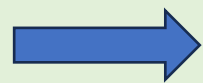
○質問項目 6「対話等を通じて、多様な情報や考えを取集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと」

- ・それぞれの考え方を否定せず（させず）、認め合いながらどの答えが問題解決に適しているかを考えさせる。
- ・切り返しの発問を行うことで子供の思考を深める。

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査を活用した取組〉

実施時期、回数

- 学期ごとに実施
- 6月と2月に実施
- 単元ごとに実施



複数回実施し、変容を確認
取組の検証・さらなる改善へ

方法等

- フォームで実施することで、短い時間での調査を実施。集計や複数回の実施も容易になる。
- これまで市町村や学校で実施しているアンケートに、本調査項目を追加して実施。
調査に対する負担を軽減する。
- 2回目以降は、意識した項目について実施。取組を検証。

**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
児童生徒の実感をもとにした授業づくり**

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査
研修資料サイトに掲載されている資料

児童生徒用・教師用質問紙（word形式）

学校 児童生徒質問調査				
学校名	年 組			
★学校名・学年・組・教科を記入してからはじめてください。				
下の10項目について、今年の授業を思い出して、最も当てはまるものを①～⑤の中から一つ選んでください。				
⑤	④	③	②	①
よくあった	ときどきあった	どちらともいえない	あまりなかった	ほとんど、または全くなかった
質問項目		回答		
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと。			
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと。			
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気で作業が行われたこと。			
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと。			
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたこと、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと。			
6	話し合いや読めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと。			
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたいたい、学びたいと思ったこと。			
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とながったこと。			
9	授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと。			

学校 教員質問調査				
学校名	年 組			
★教科ごと、学級ごとに回答してください。				
それぞれの質問項目について、次の①～⑤から最も当てはまるものを回答してください。				
⑤	④	③	②	①
よくあった	ときどきあった	どちらともいえない	あまりなかった	ほとんど、または全くなかった
質問項目		回答		
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと。			
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと。			
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと。			
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。			
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるよう工夫したこと。			
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと。			
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたいたい、学びたいと思うような工夫をしたこと。			
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと。			
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと。			
10	子供が教師の指示に従って受動的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること。			

質問紙集計表（excel形式）

項目	児童生徒				教員			
	児童	生徒	児童	生徒	教員	児童	生徒	教員
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
2	誤り							

行を増やして
3回目・4回目
も実施可能

振り返りを記入
して改善を
確かめる



アンケート機能のあるアプリを使えばすぐに集計できそう！



義務教育指導課 研修用資料サイト

https://ecswb.center.spec.ed.jp/gimushi/page_20240411093409

同じフォーマットで実施すれば
他校との合同研修もできそう！



参考資料



埼玉県学力・学習状況調査
「タップで実感 アップでスマイル」



主体的・対話的で深い学び
の視点による質問調査



令和7年度
埼玉県学力・学習状況調査報告書



彩の国 埼玉県
Saitama Prefecture

Foreign Language 文字サイズ・色合い変更 音声読み上げ Google 検索 組織から探す

トップページ | 暮らし・環境 | 健康・福祉 | しごと・産業 | 文化・教育 | 県政情報・統計 緊急・防災

[トップページ](#) > [教育委員会トップ](#) > [学校教育](#) > [教育課程](#) > [教育課程に関する資料](#) > [小学校教育課程実践事例（追加）](#)

LINEで送る Tweet 印刷 ページ番号：266835 掲載日：2025年3月31日

小学校教育課程実践追加事例

[本書の構成と利用の仕方（PDF：108KB）](#)

目次（PDF：72KB）

第1章 各教科

- [第1節 国語](#)
- [第2節 社会](#)
- [第3節 算数](#)
- [第4節 理科](#)
- [第5節 生活](#)
- [第6節 音楽](#)
- [第7節 図画工作](#)
- [第8節 家庭](#)
- [第9節 体育](#)



【御案内】アクションリサーチ成果報告会

- 1 開催日時 令和8年2月4日(水)
 - 【第1部】 13:20～14:15 (受付13:00～)
 - 【第2部】 14:35～16:30 (受付14:20～)
- 2 開催方法 オンライン (Microsoft Teams ウェビナー)
- 3 参加対象 【第1部】 県内小・中学校等校長、教頭、主幹教諭
(希望者) 各市町村教育委員会指導主事 等
 【第2部】 県内小・中学校等教員
 第1部の対象者

4 内容

【第1部】

「管理職が研修プログラムを活用することで、どのように教員の指導が改善し、児童生徒の学習状況が変容していくかを見取る手法」による取組

時間	内容	講師・指導者・担当者等
13:00	受付	
13:20	開会行事	挨拶：義務教育指導課 教育指導幹
13:25	事業概要説明	
13:35	シンポジウム 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した、管理職による教職員への指導について	青山学院大学 教授 益川 弘如 氏 対象管理職
14:10	閉会行事	

アクションリサーチとは

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、大学の専門家による指導・助言を通して授業改善を図りながら、効果的な指導のポイントを抽出し、その成果を広く県内の教員に広め共有・普及し、教員の指導力向上を図る取組

R7 対象教員8名
 (国語 小2名、中2名、算数 小1名、
 数学 中1名、外国語 小1名、中1名)
 対象管理職2名 (小1名、中1名)

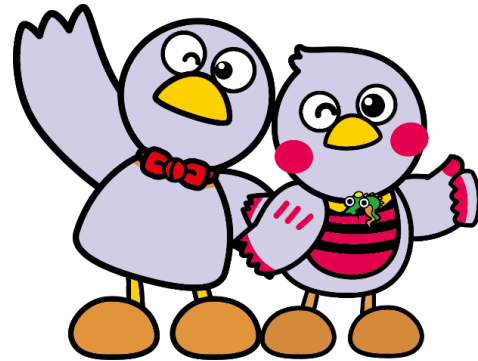
【第2部】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善や指導意識の変化に伴う、児童生徒の学習方略等の変容を見取る手法」

時間	内容	講師・指導者・担当者等
14:20	受付	
14:35	開会行事	
14:40	事業概要説明	
14:50	対象教員によるアクションリサーチの振り返り	アクションリサーチ対象教員
15:20	アクションリサーチの取組について ・対象教員の変容 ・主体的・対話的で深い学びの授業等	埼玉大学 准教授 本橋 幸康 氏 (国語) 教授 二宮 裕之 氏 (算数・数学) 教授 及川 賢 氏 (外国語・英語) 聖学院大学 特任教授 熊谷 芳郎 氏 (国語) 青山学院大学 教授 益川 弘如 氏
	総括	
16:20	閉会行事、諸連絡	謝辞：義務教育指導課教育指導幹

令和7年度 東部地区学力向上推進協議会

引き続き、児童生徒一人一人の
確かな学力の育成をお願いします



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」